

# 家族と健康

## Reproductive Health



一般社団法人  
日本家族計画協会

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館  
電話03(3269)4727 FAX03(3267)2658 http://www.jfpa.or.jp  
発行人:北村 邦夫 編集人:三橋 裕行 毎月1回1日発行

セブン  
7A

私たちの  
スローガン  
です

- A dolescent 思春期保健の推進
- A bortion 安全な人工妊娠中絶
- A ccess どこでも誰もがサービスを受けられる
- A dvocacy 啓発・提言活動
- A IDS STI及びHIV/エイズの予防
- A geing 高齢化社会対策
- A buse 児童虐待の防止

# 800号に寄せて

## 本会機関紙、1954年創刊から1号も欠かさず発行



本会理事長  
北村 邦夫

「君は筆で戦うことができるかい」  
『風に向かって立つ』の著書を差し出しながら、慶應義塾大学フランス文学部出身だといつて高笑いしていた故国井長次郎本会初代会長は、さうにこう言葉を向けた。「民衆の幸福のために働く気持ちはあるか。時には行政だつて敵に回しながらさ。北村君、金が欲しかったら、働く場所としてここは相応しくない。金が欲しかったら兜町へ行けばいいんだ」。言葉は続いた。「君が最優先すべきことは、金儲けではない。君が、やるべきことを徹底して行っていけば、金は後からついてくる。神様は、すべてをお見通しなのだ」。

54年4月、わが国の人工妊娠中絶届出件数が177万件を数えるころに創立された日本家族計画普及会(後の「協会」)。国井さんによれば、「行く先がどこになるのか、途中でエンコするの、息絶えて冷たくなるのか、機関紙も車掌も、乗客までが、かきもくわらない」(「夜明け前の若い機関車」より)という旅立ちであったという。しかし、そんな中でも一貫していたのは、家族計画運動団体としての誇りだった。その第一が機関紙の発行。「運動を進めるには、まずわれわれの考えと情報を伝えることが重要だ」と考えたのだ。

結果、54年4月18日に第1号を発行することになった。以来、1号の欠号もなく800号にまで至ったことは、われわれ日本家族計画協会が働く者としての誇りであり、われわれの活動にご助

言、ご鞭撻を賜った厚生労働省、全国自治体、学会をはじめとした関係諸団体、そして何よりも機関紙「家族計画」、62年10月に改題した「家族と健康」の読者として支えてくださった大勢の皆さまあつてのこと、この場をお借りしてあらためて心より御礼申し上げたい。

本会の機関紙では広く公衆衛生を向上させる視点に立ち、母子保健・思春期保健・学校保健・地域保健・産業保健と幅広い医療・福祉の分野のテーマを取り上げてきた。中でも家族計画・母子保健の普及啓発をルーティンとして、民間団体の役割として、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する歴史を創刊以来つづり続けている。

わが国における経口避妊薬(ピル)の承認の実現に向けてひた走ってきた筆者にとつては、本会機関紙第1号で、ピル開発の父であるグレゴリー・グッドウィン・ピンカス博士を物心両面から支え続けたマーガレット・ヒギンス・サンガー国際家族計画連盟初代会長の来日が報道されている。翌年10月「家族計画」第20号(「家族計画」第20号)

には、東京で開催された第5回国際家族計画会議が16か国の代表が参集し成功裏に終了したこと、この報が報じられている。この会議には、各国の家族計画、人口問題の権威者だとして、日本側からも三木武夫厚生大臣代理(当時)や党派を超えた大物政治家が壇上を埋め尽くしていた。

2018年4月から連載しているが、その内容のほとんどが、「家族と健康」の記述からの引用となつている。それほどまでに、この機関紙は、わが国の家族計画・避妊・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、最近ではプレコネーションケアなど、当該領域の過去・現在・未来を知るために不可欠の資料を提供していることとなる。

常々、筆者は「機関紙を支援くださった」に始まり、743号は「全国に広がる『避妊教育ネットワーク』」、755号では、トランプ米大統領による「グローバル・ギャグ・ルール」の再導入への反対声明を出した。756号では本会が行った「第8回男女

クスの解説と生涯を通じた健康への提言をいただいた。われわれがどこに進むべきかを指す方位磁針(コンパス)ともいえる内容となつている。企画に際してご助言賜った国立成育医療研究センター立産期・母性診療センターの荒田尚子母性内科診療部長に感謝申し上げたい。もちろん、その他の紙面もいつも以上に力を入れて編集している。ぜひお目通しいただきたい。

「新しい生活様式」を踏まえた取り組みが求められようとしている。今後、900号に向けて、本会にとつては相当厳しい道が待ち構えていることが予想されるが、決して手を緩めることなく邁進努力して参りたい。

その他にも、本会が支援するユース活動、本会家族計画研究センターの歩み、HPVワクチンに関する提言、健康寿命の延命に向けた取り組みといった多岐にわたるテーマを取り上げ、本会の主張を報じてきた(6面に

きりとしたバリトン調の声で話し始めた。世界最初のステロイド剤の内服によるピルの話を、日本の科学者は世界に先駆けて耳に

は言わないが、ほぼ九分したことになる。しかし、わが国でピルが承認されたのは99年6月のこと。本紙で「ピル承認秘話」わが国のピルの承認がこれほど遅れた本当の理由(8面に掲載)を

701号から800号ス/ライツに関する課題を振り返つても、わが国への提言などを取り上げた。国民の健康増進にクシユアル・リプロダクティブ・ヘルス/ヘルス/セミナ

2018年4月から連載しているが、その内容のほとんどが、「家族と健康」の記述からの引用となつている。それほどまでに、この機関紙は、わが国の家族計画・避妊・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、最近ではプレコネーションケアなど、当該領域の過去・現在・未来を知るために不可欠の資料を提供していることとなる。

# 広告



# 「家族と健康」800号特別企画

## ライフサイクルを通じたSRHR

～最新トピックスと今後検討すべき方向性を気鋭の研究者・識者らが語る～

### 成人期

#### 青壮年期のヘルスケアとしてのプレコンセプションケア

国立成育医療研究センター 産産期・母性診療センター 母性内科 診療部長 荒田 尚子

「プレコンセプション」とは、結婚・妊娠・出産を意味し、プレコンセプションケアは、狭義には適切な時期に適切な知識・情報や女性やカップルが対象に提供し、将来の妊娠のためヘルスケアを行うことと定義されます。このケアは、ヘルスケアの向上を促すことと妊婦期・産後期のケアを統合的に捉えることが重要です。プレコンセプションケアは、身体的、心理的かつ社会的健康状態を改善させることが可能です。

### 妊娠・出産

#### 産みたいときに産み育てるには

産科婦人科 産科部長 佐藤 雄一

胎児・少子化の現代、女性が産みたいと考えたときに産む、そのためには準備が必要である。単独にある卵は、年齢と共に減っていく。タバコやアルコール、不規則な生活習慣や乱れた食生活は、卵の質を低下させ、妊娠のリスクを高めます。また、BMI(体格指数)が25以上の肥満、鉄分や亜鉛、ビタミンDといった栄養素の不足は、妊娠のリスクを高めます。若年がんも心配され、高血圧や糖尿病などの疾患を抱える世代にも妊婦が増えています。

### 表 プレコンセプションケア・チェックシート

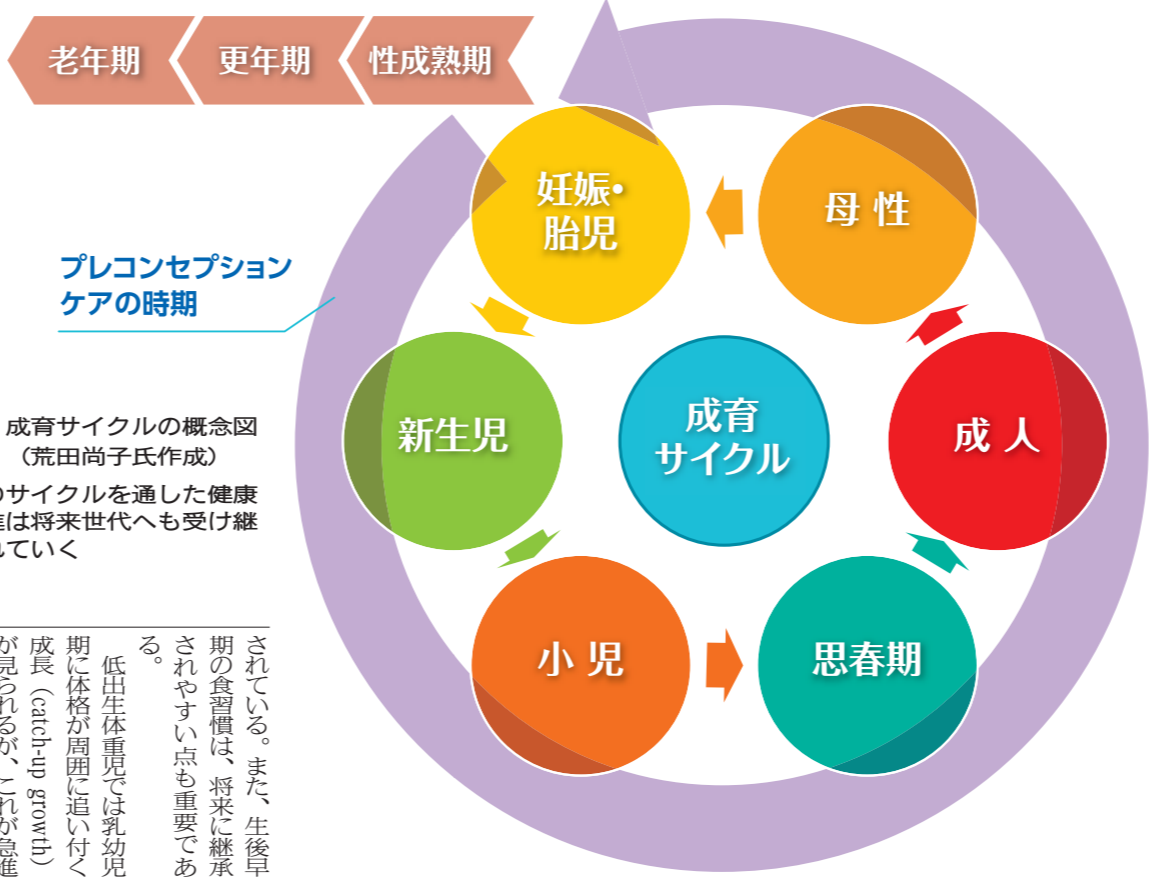
<input type="checkbox"/> 適正体重をキープしよう。	<input type="checkbox"/> 禁煙する。受動喫煙を避ける。
<input type="checkbox"/> アルコールを控える。	<input type="checkbox"/> バランスの良い食事をこころがける。
<input type="checkbox"/> 食事とサプリメントから葉酸を積極的に摂取しよう。	<input type="checkbox"/> 150分/週運動しよう。
<input type="checkbox"/> ストレスをためこまない。	<input type="checkbox"/> 感染症から自分を守る。(風疹・B型肝炎・性感染症など)
<input type="checkbox"/> 感染症から自分を守る。(風疹・B型肝炎・性感染症など)	<input type="checkbox"/> ワクチン接種をしよう。(風疹・インフルエンザなど)
<input type="checkbox"/> 有害な薬品を避ける。	<input type="checkbox"/> 生活習慣病をチェックしよう。
<input type="checkbox"/> がんのチェックをしよう。(乳がん・子宮頸がんなど)	<input type="checkbox"/> 子宮頸がんワクチンを初体験前にとろう。
<input type="checkbox"/> 持病と妊娠について知ろう。	<input type="checkbox"/> 家族の病気を調べておこう。
<input type="checkbox"/> 歯のケアをしよう。	<input type="checkbox"/> かかりつけの婦人科医をつくろう。
<input type="checkbox"/> 計画：将来の妊娠・出産をライフプランとして考えてみよう。	

(国立成育医療研究センターHPより一部改変)

青壮年期は、圧倒的に自己が主死因であり、男性は女性の2倍以上の死亡率です。肥満やタバコが原因で報告されています。女性では30歳からが最大の死因となり、男性よりも高くなっています。また、心血管や脳血管疾患による死

しまった場合は、治療時間をとられ、妊娠を断念しなければならぬこともあります。こちらでワークや生活習慣による予防や、定期検診を受けることで病気を早期に発見し、子どもを産み育てるための体力を付けていきましょう。

## 子どもを産む・産まないにかかわらず 全てのステージの健康が社会全体の健康へつながる



### 小児期からの包括的性教育の必要性

西岡 笑子

性的健康教育については、いまだに行っていないことが多く、望ましい状況とは言えない。性教育は、子どもが成長するにつれて必要になる。乳幼児期から始めることで、子どもが健全な関係を築くための基礎となる。

### The first 1000 days

乳幼児期をどう過ごすか

昭和大学医学部小児科講座 講師 中野 有也

The first 1000 daysとは、受精から分娩まで、つまり1000日間の期間を指す。この期間に適切なケアを行うことが、子どもの健康と発達に大きな影響を与える。

### 成人期の健康と生活習慣

成人期の健康は、幼少期の生活習慣によって大きく左右される。肥満、高血圧、糖尿病などの疾患は、生活習慣の改善によって予防できる。

### 生涯の健康へ

前田 恵理

生涯の健康を維持するためには、定期的な検診を受けることが重要である。また、健康的な生活習慣を身につけることも大切だ。

### 更年期・男性

#### 美しく新しい人生をスタートするために

寺内 公一

更年期は、男性も女性も経験する重要な時期である。ホルモンバランスの変化によって、さまざまな症状が現れる。適切なケアを受けることで、健康な生活を送ることができる。

### 健康寿命の延伸に向けて

小熊 祐子

健康寿命を延ばすためには、定期的な運動とバランスの良い食事が鍵となる。また、ストレスを管理することも重要だ。

### 現代の思春期男子と母親との関係に抱いている危険

今井 伸

思春期の男子は、母親との関係に悩んでいる。母親は、子どもの変化を理解し、適切なサポートを提供することが求められる。

### 思春期・女子

エンパワメント!

池田 裕美枝

思春期の女子は、自己肯定感を高めることが重要である。エンパワメントを通じて、自信を育み、健全な関係を築くことができる。

家族と健康 800号記念

本紙トップ記事見出し一覧(平成24年～現在)

◆平成24年(2012)

- 701号-8月 SRHセミナー100回記念大会開かれる  
セミナーはビル発売の1999年開始、全国各地で開催
- 702号-9月 IPPFメッセ事務局長来日  
ロンドン家族計画サミットの成果を報告
- 703号-10月 第31回日本思春期学会 軽井沢で開催  
「思春期の危機に迫る」テーマに
- 704号-11月 平成24年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) によせて  
分かち合おう、子育ての喜び～地域で支える「育ち合い」～
- 705号-12月 平成24年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) 群馬県で開催  
望まない妊娠・出産防止(研究会)、発達障害(シンポ)をテーマに

◆平成25年(2013)

- 706号-1月 新春によせて  
リプロダクティブ・ヘルスの実現に向け、本年もさらなる尽力
- 707号-2月 第6回男女の生活と意識に関する調査  
本会が実施、少子化の進行に着目
- 708号-3月 【ジェクス】ジャパン・セックス・サーベイ結果報告会を開催  
本会家族計画研究センターが調査、日本人の性行動明らかに
- 709号-4月 人権としての家族計画、さらなる推進を  
本会、25年度事業計画・予算決まる
- 710号-5月 第17回「松本賞」種部恭子氏(富山市)に決定  
リプロダクティブ・ヘルス/ライツの向上に寄与
- 711号-6月 本会家族計画研究センター・クリニック2012年度事業報告  
不妊の普及啓発に尽力 電話相談は時代を映す鏡
- 712号-7月 第11回思春期保健相談士学術研究会開催  
「女性労働と子育て」テーマに 一般学術演台報告は8題
- 713号-8月 平成25年度家族計画研究会 10月山形で  
「いつか子どもが欲しいと思っっているあなたへ」テーマに  
特定不妊治療の公費助成「42歳まで」  
厚労省「不妊に悩む方への特定治療支援事業等のあり方に関する検討会」
- 715号-10月 平成25年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) によせて  
震災後初の東北開催
- 716号-11月 平成25年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) 山形県で開催  
妊娠・出産の適齢期(研究会)、訪問型子育て支援(シンポ)をテーマに
- 717号-12月 世界人口白書2013公表 UNFPA 思春期妊娠の解決を

◆平成26年(2014)

- 718号-1月 60周年の新春に寄せて  
本会創立60周年 国井イズムを持って
- 719号-2月 第13回健やか親子21推進協議会 総会開催  
「健やか親子21」最終年、次期計画に向け協議
- 720号-3月 第2回ジャパン・セックス・サーベイ  
本会、都道府県別に性行動を分析
- 721号-4月 家族計画運動60年の歩みと今後の展望  
人間中心の家族計画を
- 722号-5月 第18回「松本賞」小西都生氏に授与  
京都市在住・産婦人科医師 リプロ・ヘルス分野で活躍
- 723号-6月 本会家族計画研究センター2013年度事業実績報告  
HPVワクチン、ピルと血栓症などの課題に取り組む
- 724号-7月 第12回思春期保健相談士学術研究会開催  
思春期に対応する「カウンセリングの心」を学ぶ
- 725号-8月 平成26年度家族計画研究会 in 愛媛  
「女性アスリートへの健康支援」をテーマに、11月に開催
- 726号-9月 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ委員会、本会に発足  
第1回委員会開催 アドボカシーの活動の強化を目指す
- 727号-10月 低用量経口避妊薬(ピル) 発売から15年  
本会家族計画研究センター、メディアセミナーを開催
- 728号-11月 平成26年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) によせて  
11月、愛媛県で開催
- 729号-12月 健やか親子21(第2次)、新たな推進体制を目指す  
第10回「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会開催

◆平成27年(2015)

- 730号-1月 新春によせて  
変わらぬ理念、すべての子は望まれた子に 望まない妊娠・出産を防ぐために
- 731号-2月 第7回男女の生活と意識に関する調査  
各メディア、「セックスレス44.6%」を取り上げ
- 732号-3月 学校教育の改善求め要望書提出  
本会・日本産科婦人科学会など9団体
- 733号-4月 リプロ・ヘルスのさらなる向上を目指して  
平成27年度本会事業計画書案・収支予算書案承認
- 734号-5月 第19回「松本賞」、久保田俊郎氏に  
東京都在住・産婦人科医師 日本生殖医学会副理事長ほか歴任
- 735号-6月 本会家族計画研究センター2014年度事業実績報告  
思春期・FP(家族計画)、経口避妊薬(OC)、不妊・不育など相談事業多数

本紙800号の発行を記念し、701号からのトップ記事の見出しを一覧にまとめました。平成24(2012)年8月から令和2(2020)年11月まで、8年間の変遷を振り返ることができます。  
本紙はこれからも母子保健、思春期保健、学校

保健、地域保健、産業保健等、幅広い健康教育を主なテーマとする情報紙として、全国の保健・医療・教育・福祉などに携わる皆さまに、より充実した紙面をお届けして参る所存です。今後とも何卒よろしくご厚意申し上げます。(編集部)

- 736号-7月 平成26年度本会事業報告・決算報告承認
- 737号-8月 平成27年度家族計画研究会 in 神奈川  
10月9日「子宮頸がん予防」をテーマに横浜で開催
- 738号-9月 日本産婦人科医学会 第38回性教育指導セミナー全国大会(広島)開催  
北村・本会理事長、経口妊娠中絶薬の早期導入訴える
- 739号-10月 平成27年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) によせて  
人工妊娠中絶件数18万6千件
- 740号-11月 平成27年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) 神奈川で開催  
子宮頸がん予防(研究会)、産前産後ケア(シンポ)をテーマに
- 741号-12月 第4回「健康寿命をのばそう!アワード」表彰式開催  
新設「母子保健分野」で7団体が受賞

◆平成28年(2016)

- 742号-1月 新春によせて 夢と希望を持てる豊かな国へ向かって  
全国に広がる「避妊教育ネットワーク」  
発足から11年、会員数(全国44都道府県)111人に
- 743号-2月 2016年度から大きく変わるJFPA思春期保健セミナー®  
望まない妊娠を回避し児童虐待防止を  
平成28年度本会事業計画・収支予算承認
- 746号-5月 第20回松本賞 若下光利氏に  
東京都在住・産婦人科医師 周産期医学・生殖内分泌学の発展に貢献
- 747号-6月 本会家族計画研究センター2015年度事業実績報告  
思春期や不妊・不育、女性の健康相談事業多数、セミナーで児童虐待防止
- 748号-7月 平成27年度本会事業報告・決算報告承認
- 749号-8月 平成28年度家族計画研究会 in 岡山  
10月5日「LGBTへの理解を深める」をテーマに開催決定
- 750号-9月 平成28年度ブロック別母子保健事業研修会開催  
10~11月、全国6ブロックで開催 今年で60年
- 751号-10月 平成28年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) によせて  
人工妊娠中絶の減少と格差 7Aの実現を目指して
- 752号-11月 平成28年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) 岡山で開催  
LGBT(研究会)、切れ目ない母子保健サービス(シンポ)をテーマに
- 753号-12月 若者の視点で、若者による政策提言を  
第1回ジャパン・ユース・フォーラム開催

◆平成29年(2017)

- 754号-1月 新春によせて  
遺志を継ぎ、さらに邁進
- 755号-2月 トランプ米大統領による「グローバル・ギャグ・ルール」の再導入反対  
望まない妊娠の増加 女性の健康と権利を軽視  
夫婦のセックスレス化さらに進む  
「第8回男女の生活と意識に関する調査」結果まとめる
- 756号-3月 関係機関と協力しリプロ・ヘルスの向上へ  
平成29年度本会事業計画(案)・収支予算(案)承認
- 757号-4月 第21回松本賞 対馬ルリ子氏に  
東京都在住・産婦人科医師 生涯にわたる女性の健康増進に尽力
- 758号-5月 本会家族計画研究センター2016年度事業実績報告  
「第8回男女の生活と意識に関する調査」実施、女性の健康相談事業多数
- 759号-6月 平成28年度本会事業報告・決算報告承認  
平成29年度家族計画研究会 in 宮崎  
10月27日「居場所のない女の子たち」をテーマに開催決定
- 760号-7月 平成29年度ブロック別母子保健事業研修会開催  
10~11月、全国6ブロックで開催
- 761号-8月 平成29年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) によせて  
子宮頸がん予防ワクチン再勧奨 リプロ・ヘルス/ライツの推進
- 762号-9月 今、あらためて子宮頸がんについて考える  
一日も早いワクチンの積極的接種勧奨の再開を
- 763号-10月 本会の発展に尽力した近藤男会長が逝去  
家族計画運動の生き字引と呼ばれ
- 764号-11月
- 765号-12月

◆平成30年(2018)

- 766号-1月 新春によせて さらに前進する一年へ  
若者が提言する性教育と情報提供の在り方
- 767号-2月 第2回ジャパン・ユース・フォーラム開催

- 768号-3月 梅毒患者急増 いまだ止まらず  
2017年件数前年比約3割増
- 769号-4月 SRHRを脅かす諸課題の解決へ  
2018年度事業計画(案)と収支予算(案)承認
- 770号-5月 第22回松本賞 我部山キヨ子氏に  
京都を中心に助産師の高度実践者・研究者育成に寄与
- 771号-6月 本会家族計画研究センター2017年度事業実績報告  
ピルの普及・啓発、不妊・不育や思春期相談事業に尽力
- 772号-7月 2017年度本会事業報告・決算承認  
平成30年度家族計画研究会 in 三重  
11月9日子どもたちの未来を守る「性教育」をテーマに開催決定
- 773号-8月 平成30年度ブロック別母子保健事業研修会  
10~11月に全国6会場で開催
- 774号-9月 第37回日本思春期学会総会・学術集会開催  
若年母の学業と子育ての両立支援
- 775号-10月 平成30年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) によせて  
リプロ・ヘルスの向上を脅かす諸課題の解決を
- 776号-11月 平成30年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) 三重で開催  
母から子へ～常若(とこわか)に輝く社会をめざして～

◆平成31年(2019)

- 778号-1月 新春によせて 脅かされているSRHR果敢な戦いを  
若者が提言!「若者の居場所づくり」と「信頼できる大人の存在」  
～第3回ジャパン・ユース・フォーラム開催～
- 779号-2月 2018年度指導者のための避妊と性感染症予防セミナー(SRHセミナー)開催報告
- 780号-3月 リプロ・ヘルスのさらなる向上へ  
2019年度本会事業計画書(案)・収支予算書(案)承認

◆令和元年(2019)

- 782号-5月 第23回松本賞 苛原稔氏に授与  
徳島県を中心に活動 生殖内分泌学研究等に尽力
- 783号-6月 本会家族計画研究センターが振り返る 平成30年間の歩みと2018年度事業実績  
2018年度本会事業報告・決算承認
- 784号-7月 令和元年度家族計画研究会 in 千葉  
11月8日「女性の健康を守る～子宮頸がんから女性を守る～」開催決定
- 785号-8月 2019年度ブロック別母子保健事業研修会  
10~11月に全国5会場で開催
- 786号-9月 日本家族計画協会母子保健指導部500回記念寄稿 これまで46年間の歩み  
保健事業専門職研鑽の場として
- 787号-10月 令和元年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) によせて  
ピルの承認・発売から20年 プレコンセプション・ケアの推進
- 788号-11月 令和元年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会) 千葉県で開催  
みんなが主役!～地域みんなで支える子育て～
- 789号-12月

◆令和2年(2020)

- 790号-1月 新春によせて  
リプロダクティブ・ヘルスの課題を一つでも解決できる年に  
HPVワクチン 関係諸団体・自治体による接種勧奨再開の潮流  
国の動きを待たない!
- 791号-2月 ピル発売から20年～本会として普及に尽力へ  
2008年からLEPが登場 OC/LEPの普及に本会が果たした役割とは
- 792号-3月 未来に向けてリプロダクティブ・ヘルス/ライツの充実を図る  
2020年度本会事業計画(案)・収支予算(案)承認
- 793号-4月 第24回松本賞 平松祐司氏に授与  
岡山県在住・産婦人科医師 幅広い専門性と多岐にわたる成果
- 794号-5月 本会家族計画研究センター2019年度事業実績報告  
2019年度本会事業報告・決算承認
- 795号-6月 9価HPVワクチンの製造販売を承認
- 796号-7月 コロナ禍で変わる日本家族計画協会  
この厳しい状況下においてもSRHRの向上を
- 797号-8月 厚労省 新型コロナウイルス感染症流行下の自粛の影響調査研究へ  
本会家族計画研究センターも分担研究を担当
- 798号-9月 800号に寄せて  
本会機関紙、1954年創刊から一号も欠かさず発行
- 799号-10月
- 800号-11月



701号(2012年8月)  
SRHセミナー100回記念大会開かれる



743号(2016年2月)  
全国に広がる「避妊教育ネットワーク」



755号(2017年2月)  
トランプ米大統領による「グローバル・ギャグ・ルール」の再導入反対



756号(2017年3月)  
夫婦のセックスレス化さらに進む



791号(2020年2月)  
HPVワクチン 関係諸団体・自治体による接種勧奨再開の潮流

広告



OC/LEP処方が私の医師人生をどう変えたか⑧

OC/LEP処方で晴れ晴れとした患者さんの表情が楽しみに

えびの共立病院(宮崎県えびの市) 黒木 富士子



若い女性にも安心して受診してもらいたい

低用量ピル(OC)がわたり、安全な出産を目...

族計画の話は母親学級やとも言えない居心地の悪...

患者さんの声に耳を傾けて

外来だけになり、妊婦さつた患者さんに、いか...

これからもプレコンセプション・ヘルス・ケアを地道に推進

| 今月の人 | くらき・ふじこ | 1987年、宮崎医科大学卒業後、同大学医局に入局...

第32話 ピル承認に向けてメディアでの取り上げが活発に

1990年7月20日に、日本オルガノン社、第一製薬、シンテックス...



だど伝えている。同じ日本経済新聞では、同年10月28日朝刊で、...

5~7月の妊娠届出数 前年同期比1割超減

厚生労働省が緊急調査した妊娠届出数の状況によると、今年5~7月の妊娠届出数は、20万4482件となり、前年同期(23万813件)を11.4%下回った。...



地域の高校で性教育講話を行う黒木氏

広告